

# こんにちは！ 名寄市長 加藤剛士です

Vol.10



このコーナーは、Airてっし（エフエムなよろ）との共同企画で、テーマを市長が設定し、本誌ではコラムとして、Airてっしではパーソナリティーとの対談で放送いたします。

## 自治体スクラム支援会議その② ～南相馬市を再度訪問して～

第4回目の「自治体スクラム支援会議」に出席するため、会議前日の7月22日に南相馬市へ。5月に続いての訪問で、その日に桜井市長と2人でお話しする機会をいただきましたが、無念、悲しみ、やり場のない怒り、反省と責任…胃が痛くなる何とも言えない感情が込み上げてきました。

政府は7月19日、福島第一原発事故の収束に向けた工程表のステップ1が終了と発表しました。一方で、21日には南相馬市内で新たに4地区が「特定避難勧奨地点」に指定するとも発表しました。何を信じたらいいのか。「今晚もその住民説明会なんですよ」と明るくお話しするのは桜井市長。本当に強い方です。「桜井市長だから、南相馬市は頑張っているのですね」そんな言葉しか見つかりません。その夜の説明会では「発災から4カ月たった今さら何だ！」対応の遅さに市民のやり場のない不安と怒りは爆発し、その説明会がかなり遅くまでかかったのは推察のとおりです。

まちづくりに関わる諸課題の解決、あるいは今回の震災への対応など、現場に立って市民と向き合うのは市長をはじめとする市職員です。しかし、「大丈夫、一緒に頑張ろう、復興のために」という言葉が、今は市民の共感を得にくく、また、安全安心が担保される確証がないため、職員も自信を持って市民に向き合えないのではないのでしょうか。原発がらみの安全安心の保証は、国と東電の責務ですが、ここがはっきりしない中でも、市は市民と向き合い、地域の復旧復興を最前線でやらなければならない、まさに「板挟み」です。

南相馬市では、独自に大型の補正予算を組んで徹底的に市内のあらゆるところを「除染」する方針ですが、大変な予算と労力を伴い、大きな「賭け」です。そこには、全国に避難している市民の皆さんに何とか戻ってきてもらいたい、そして市民と一緒にこのまちの未来像を描いていきたいと願い、必死に知恵を絞り、あきらめない桜井市長、村田副市

長（総務省から出向）、そして職員の郷土を愛する強い思いと復興に対する強い決意を感じます。

震災問題、その後の原発問題は総理大臣1人の責任ではなく、もちろん国会議員だけの責任でもありません。そして東北地方だけの問題でもありません。原発を容認し、その恩恵を受け、豊かな生活を享受してきた全ての国民が向き合うべき問題であり、責任だと思えます。政府には、当該住民の安全安心の担保を早急に見極め、確固たる決断をすることを強く期待しますし、あらためて今こそエネルギー政策のみならず産業全般、否この国のあり方というか、柱というか、10年先、20年先のビジョンを、国会議員を中心に国民皆で真剣に議論するべき時ではないでしょうか。震災でお亡くなりになった方、被災してご苦労されている方、あるいは復旧支援にご苦労されている方に報いるためにも。

名寄市は杉並区とのご縁があって「自治体スクラム支援会議」を結成し、南相馬市を支援させていただいております。我々にできることは、これからも必要とあらば、いつでも協力、相談に乗り、また、時には戦う姿勢と覚悟を持つことだと思います。

名寄市の支援として6月に第一次の職員派遣を行っておりますが、9月下旬にも第二次として6人の派遣を予定しています。名寄市民の皆さんのご理解、ご協力をこれからもよろしく願います。南相馬市をはじめ、東日本の力強い復興を心から念願してやみません。



「名寄市からのお知らせ」を放送中

市からのお知らせやイベント情報などを紹介しています。

放送＝毎週月～金曜日 ① 8:10から ② 12:30から ③ 17:10から